

同仁キリスト教会 子どもの教会 2018年2月11日

牧師 飯川雅孝

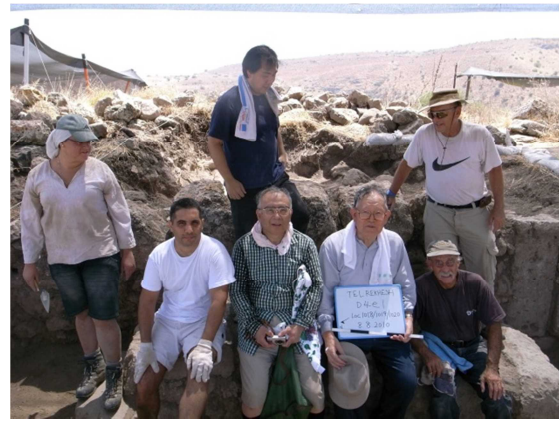
飯川牧師が7年前にイスラエルで発掘調査をしたテル・レヘシュの遺跡(2000近く前は集落)には「イエス様に来て、たぶん聖書を読んだかもしれない」という会堂(シナゴグ)跡の発見が一昨年ありました。そこはナザレから17キロの距離の丘の上です。驚きました。

ルカ 4:16 イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。

会堂の遺跡を上から見たものです。(石が椅子)



7年前の発掘調査：飯川牧師と仲間



テル・レヘシュ遺跡

会堂跡の規模など全容判明 小集落にもユダヤ教浸透 天理大など調査団発表 イスラエル /奈良
毎日新聞 2017年10月3日 地方版

真上から見たイスラエル北部の初期シナゴグ跡(上記写真)。写真の下側が入りに当たるという＝テル・レヘシュ発掘調査団提供

天理大などの調査団は2日、イスラエル北部のテル・レヘシュ遺跡で調査団が昨年発見した紀元1世紀のユダヤ教の会堂(シナゴグ)跡について、規模や入り口の位置などの全容が判明したと発表した。人口数十人の小集落と考えられている。同時期の遺構は8例目だが、同規模集落での確認は初という。調査団は「初期シナゴグの形式を知る重要な手掛かり」としている。【矢追健介】

シナゴグはユダヤ教が定める「安息日」に律法を議論したり、集会を開いたりする場所。天理大は立教大と共同で、2006年から旧約聖書にある伝説の都市「アナハト」の有力地として同遺跡の調査を進める。ガリラヤ湖南西約12キロの丘にあり、前期青銅器時代(紀元前30世紀ごろ)からローマ時代(2世紀)まで人が住んでいたとみられる。

イスラエル北部のテル・レヘシュ遺跡の位置＝テル・レヘシュ発掘調査団提供

シナゴグ跡は南北8・5メートル、東西9・3メートルの長方形で、石組みの壁があったとみられ、ベンチ代わりの切り石が四方の壁際に並ぶ。昨年、部屋の中央で1個が見つかった切石が、今夏の調査で計2個あることが判明。当初は物を置く台と考えられたが、調査団長の桑原久男・天理大教授は「天井を支える柱の礎石」と再解釈した。

ローマ帝国が西暦70年、信仰の中心だったエルサレム神殿を破壊した後、各地のシナゴグは宗教的な意味合いを強め、入り口をエルサレムに向けて造られるようになったという。今回のシナゴグの入り口は北向きで、神殿破壊前の様相を示す貴重な例となる。

遺跡は川に囲まれた標高約35メートルの丘に位置し、ユダヤ教の規定通りの容器などが出土したことから、数十人のユダヤ人が住んだとされる。副団長の長谷川修一・立教大准教授は「人里離れた小さな村にもユダヤ教が浸透していたことが分かり、当時も安息日を重要視していたことがうかがえる」と話した。

天理大は13日午後3時から、天理市柚之内町の同大で、テル・レヘシュ遺跡などがある地中海東岸地域のユダヤ人の歴史に関する公開講演会を開く。テル・アヴィヴ大のオデド・リプシッツ考古学研究所教授らが出席する。問い合わせは天理大(0743・63・9035)。